

令和5年度 事業報告

令和5年4月1日から

令和6年3月31日まで

事業概要	1
1 法人の概況	2
(1) 設立年月日等	
(2) 定款に定める目的	
(3) 定款に定める事業内容	
(4) 役員等に関する事項	
(5) 会議の開催状況	
2 事業の実施状況	5
【公益目的事業】	
公1 産業技術支援事業	5
1 人材育成	
(1) 研修指導事業	
(2) 技術者研修助成事業	
2 企業等の技術力向上支援	
(1) 研究開発助成事業	
(2) 財団活動PR事業	
公2 高度技術研究開発等推進事業	7
1 技術研究開発	
(1) 高度技術開発・応用研究事業	
(2) 起業化支援研究等推進事業	
(3) シーズ活用支援事業	
(4) 共同研究開発事業	
(5) 研究開発プロジェクト事業	
(6) 技術研究開発成果フォローアップ事業	
2 北海道立工業技術センター運営管理	
(1) 北海道立工業技術センター指定管理者事業	
(2) 維持管理事業・維持運営事業	
(3) 試験分析事業	
(4) 技術相談事業	
(5) 研修事業	
(6) 技術情報提供事業	
(7) 広報等事業	

公3 地域産業活性化支援事業 10

1 中小企業等支援

(1) 市場販路開拓等事業

2 函館市産業支援センター運営管理

(1) 函館市産業支援センター指定管理者事業

(2) 産業支援センター財団独自事業

3 起業者への育成・支援

(1) 起業化促進事業

4 地域産業活性化

(1) 広域的産業立地支援事業

【収益等事業】

収1 受託等事業 17

(1) 受託研究開発事業

(2) その他受託事業

(3) 知的財産活用促進事業

財団運営課題について 18

事業概要

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の長期化やパレスチナ自治区ガザにおけるイスラエルとイスラム組織ハマスの間での戦闘などにより、エネルギー食料価格の高騰、物価上昇など世界的に不確実な状況が続いていますが、日本経済は、コロナ禍の3年間を乗り越え、30年ぶりとなる高水準の賃上げや、17年ぶりとなる日本銀行のマイナス金利政策の解除など、経済には前向きな動きがみられ、デフレから脱却し新たなステージに移行するチャンスを迎えております。

函館地域は、港まつりやグルメサーカスの開催など各種イベントの復活、また台湾との航空路線の再開やクルーズ船の入港増などもあり、観光業が回復し、地域全体に波及しつつあります。

令和4年度に始まった内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業の函館マリカルチャープロジェクトは、キングサーモンとマコンブの完全養殖やその事業化に向けて順調に進んでおり、その中で当財団ではマコンブの加工利用を中心に、函館市、北大などと連携しながら鋭意研究開発に取り組んでいます。

こうした社会経済環境のもと、「様々な地域資源を地域の英知を集めて活用し、持続的な産業振興を図る」ことを、中・長期的な基本方針として数多くの取組みを進めて参りました。

また、北海道立工業技術センターでは試験研究用機器の更新が順調に進んでおり、北海道や函館地域からの補助研究開発事業に継続して取り組んでいるほか、内閣府、農林水産省、日本学術振興会や日本中央競馬会、北海道の外部資金事業に継続して取り組みました。以下、令和5年度の事業重点項目に沿って、当財団の活動概況を報告いたします。

事業重点項目1 工業技術センターの利用促進による地域企業の技術力向上

工業技術センター研究成果発表会はコロナ禍の影響により令和3年度はオンライン、令和4年度は会場とオンラインでの開催であったが、令和5年度は例年5月のところ9月に、コロナ禍前の形で交流会も含めて開催し、成果品やパネルの展示により、センターが持つ技術シーズの情報発信を行った。

事業重点項目2 地域のGX・DX推進のための技術支援

地域企業が行う高度技術や新製品の開発に対して、その経費の一部を助成する研究開発助成事業で1社に助成するとともに、地域企業の技術の高度化を目的に ChatGPT を活用した IoT や電磁波ノイズ、食品表示や食中毒菌、食品乾燥操作をテーマとした技術研修を5回開催した。

事業重点項目3 新規創業等に対する支援の継続

地域企業の販路開拓支援として、出店事業や出店助成事業、デザイン支援事業に取り組むとともに、創業支援として、「創業スキルアップ講座」を9回、「ビジネスプラン作成スクール」を11回、「新規事業セミナー」、「プレゼン作成セミナー」を開催したほか、「創業バックアップ助成金事業」では函館市枠で3件採択し、合計4,622千円の助成金を決定した。

また、函館市、北斗市、七飯町および関係団体で組織する「函館地域経済牽引事業促進協議会」における活動として東京、名古屋において函館地域における優位性をPRした。



1 法人の概況

(1) 設立年月日等

昭和59年 4月 3日 財団法人テクノポリス函館技術振興協会として設立
 平成13年 4月 1日 財団法人函館地域産業振興財団に名称変更
 平成23年 3月25日 北海道知事から公益財団法人への移行認定通知
 平成23年 4月 1日 公益財団法人函館地域産業振興財団に移行

(2) 定款に定める目的

この法人は、函館地域の高度技術に立脚した産業開発を促進し、もって北海道の産業経済の発展に寄与することを目的とする。

(3) 定款に定める事業内容

- ① 高度技術の開発又は利用に関し、事業を営む者又はその従業員に対して研修又は指導を行うこと。
- ② 高度技術に立脚した産業開発を促進するために必要な施設の整備に係る調査研究を行うこと。
- ③ 高度技術に立脚した産業開発を促進するために必要な啓発を行うこと。
- ④ 企業等が高度技術の開発を行い、又は高度技術の製品の開発に利用するために必要な資金について助成を行うこと。
- ⑤ 高度技術の開発を行い、及びその成果を普及すること。
- ⑥ 北海道立工業技術センターの維持運営事業を行うこと。
- ⑦ 技術シーズの起業化を促進するために必要な事業を行うこと。
- ⑧ 北海道立工業技術センターの指定管理者事業を行うこと。
- ⑨ 函館市産業支援センターの指定管理者事業を行うこと。
- ⑩ その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

(4) 役員等に関する事項

理事、監事及び評議員について、所属団体等における令和5年度中の人事異動に伴い辞任届の提出があり、評議員会において後任者を選任した。令和6年3月31日時点の理事、監事及び評議員は次のとおりである。

【理事会】

役 職	氏 名	現 職
理事長（代表理事）	久保 俊幸	函館商工会議所 会頭
副理事長（業務執行理事）	安井 肇	北海道立工業技術センター センター長
専務理事（業務執行理事）	阿部 英敏	北海道立工業技術センター 副センター長
理 事	三浦 正彦	北海道渡島総合振興局 産業振興部地域産業担当部長
理 事	氣田 聖大	函館市 経済部長
理 事	楠川 修	北斗市 経済部長
理 事	磯場 嘉和	七飯町 商工労働観光課長
理 事	浜出 雄一	(株)東和電機製作所 会長
理 事	吉村 健太郎	函館特産食品工業協同組合 副理事長
理 事	菅 育正	(株)菅製作所 代表取締役社長
理 事	藤原 鉄弥	(株)フジワラ 代表取締役
理 事	工藤 英洋	日乃出食品(株) 代表取締役社長
理 事	千葉 仁	(株)天狗堂室船 代表取締役
監 事	今木 賢人	(株)北洋銀行 執行役員 函館中央支店長兼末広町支店長
監 事	酒井 幸次	函館商工会議所 専務理事

【評議員会】

役 職	氏 名	現 職
評議員	西本 研一	北海道渡島総合振興局 副局長
評議員	田畑 浩文	函館市 副市長
評議員	工藤 実	北斗市 副市長
評議員	工藤 稔	七飯町 副町長
評議員	都木 靖彰	北海道大学大学院 水産科学研究院長 大学院水産科学院長 水産学部長
評議員	鈴木 恵二	公立はこだて未来大学 理事長兼学長
評議員	阿部 恵	函館工業高等専門学校 校長
評議員	村瀬 充	函館商工会議所 副会頭
評議員	古伏脇 隆二	函館特産食品工業協同組合 理事長
評議員	喜多村 悟	北海道電力ネットワーク（株） 函館支店長
評議員	齋藤 洋一	函館どつく（株） 取締役執行役員 経営管理本部長兼函館造船所長
評議員	伊関 一男	太平洋セメント（株） 上磯工場長
評議員	堀井 伸一	（株）日本政策金融公庫 函館支店長

(5) 会議の開催状況（評議員会、理事会、技術審査委員会、地域技術選定委員会）

開催日／場所	議事事項	結果
第1回定例理事会		
令和5年5月29日 北海道立工業技術センター会議室	<p>[報告事項]</p> <p>① 職務執行状況に係る報告について</p> <p>[決議事項]</p> <p>① 令和4年度事業報告について</p> <p>② 令和4年度計算書類、附属明細書及び財産目録等について</p> <p>③ 諸規程の一部改正について</p> <p>④ 評議員会に提案する評議員の改選に伴う評議員候補者について</p> <p>⑤ 評議員会に提案する役員の改選に伴う役員候補者について</p> <p>⑥ 評議員会の開催に関する事項について</p> <p>⑦ 事務局幹部職員の任免について</p> <p>⑧ 令和5年度収支予算の補正について</p>	全ての議案について、原案のとおり可決した。
みなし決議による理事会		
令和5年6月16日 (みなし決議)	① 評議員会の決議に関する事項について	議案について、原案のとおり可決した。
みなし決議による評議員会（定時評議員会）		
令和5年6月26日 (みなし決議)	<p>① 令和4年度計算書類、附属明細書及び財産目録等について</p> <p>② 評議員の任期満了に伴う改選について</p> <p>③ 役員の任期満了に伴う改選について</p> <p>※ 令和4年度事業報告について（文書による報告）</p>	全ての議案について、原案のとおり可決した。
みなし決議による理事会		
令和5年6月26日 (みなし決議)	① 理事長（代表理事）、副理事長及び専務理事の選定について	議案について、原案のとおり可決した。

技術審査委員会		
令和5年6月27日 北海道立工業技術 センター会議室	令和5年度研究開発助成事業 1件の審査	申請どおりの助成額にて決定した。
みなし決議による理事会		
令和5年7月14日 (みなし決議)	① 評議員会に提案する評議員候補者について ② 評議員会に提案する役員候補者について ③ 評議員会の決議に関する事項について	全ての議案について、原案のとおり可決した。
みなし決議による評議員会		
令和5年7月28日 (みなし決議)	① 評議員の辞任及び選任について ② 役員の辞任及び選任について	全ての議案について、原案のとおり可決した。
第2回定例理事会		
令和6年3月26日 北海道立工業技術 センター会議室	[報告事項] ① 職務執行状況に係る報告について [決議事項] ① 令和5年度収支予算の補正について ② 役員の辞任について ③ 事務局幹部職員の任免について ④ 諸規程の一部改正について ⑤ 令和6年度資金運用執行方針及び運用計画について ⑥ 令和6年度事業計画について ⑦ 令和6年度収支予算について ⑧ 令和6年度運営資金借入限度額、資金調達及び設備投資の見込みについて ⑨ 役員等賠償責任保険契約について ⑩ 職員の懲戒処分について	全ての議案について、原案のとおり可決した。
みなし決議による理事会		
令和6年3月28日 (みなし決議)	① 評議員会に提案する役員候補者について	議案について、原案のとおり可決した。
みなし決議による評議員会		
令和6年3月29日 (みなし決議)	① 役員の辞任及び選任について	議案について、原案のとおり可決した。

2 事業の実施状況

【公益目的事業】

公1 産業技術支援事業

1 人材育成

(1) 研修指導事業

地域企業の高度技術の開発・利用を促進するため、企業の経営者・技術者等に対し、下記のとおり産業技術研修や指導・助言等を行った。

① 産業技術研修

	テーマ等	実施日	実施場所	講師等	参加人数
1	実務に役立つ食品の期限表示設定	令和5年6月29日	北海道立工業技術センター会議室	(株) エフシージー総合研究所 企画開発部 主査研究員 中村 賀香 氏	31名
2	ChatGPTを活用したIoT入門講座	令和5年9月13日	北海道立工業技術センター会議室	(株) 飛雁 代表取締役 福田 和宏 氏	12名
3	非加熱喫食調理済食品(RTE食品)のリスティア食中毒の危害と対策	令和5年10月6日	北海道立工業技術センター会議室	ネオジェンジャパン(株) マーケティング部 牧野 晃基 氏 日本細菌検査(株) 営業部 営業企画課 福井 康太 氏	26名
4	EMC技術セミナー	令和6年2月22日	北海道立工業技術センター研修室	SGS ジャパン(株) Connectivity EMC マネージャー 渋谷 和也 氏 (株) 東陽テクニカ EMC マイクロウェーブ計測部 iNARTE 認定 EMC エンジニア 生田 純也 氏	13名
5	食品乾燥操作の最適設計～製品品質と乾燥効率を考慮した乾燥工程設計～	令和6年3月1日	北海道立工業技術センター研修室	北海道立工業技術センター 研究開発部 函館マリカルプロ推進室 専門研究員 小西 靖之 氏	15名

② 技術コンサルティング事業

申込み実績なし

③ 研修生受入れ

1名

(2) 技術者研修助成事業

地域企業の技術者等を中小企業大学校に派遣して研修を行わせるために要する経費の一部助成を行った。

助成件数 1件1名

2 企業等の技術力向上支援

(1) 研究開発助成事業

高度技術の開発促進や高度技術を利用する企業の育成のため、次の1件について助成した。

企業名	研究開発テーマ名	助成額
サンテクノ（株）	食品用温度ロガーの研究開発	1,132千円

(2) 財団活動PR事業

財団の支援制度や北海道立工業技術センターの各種事業のPRと利用を促進するため、次の事業を実施した。

区分	事業内容等
研究成果等品のPR活動	渡島・檜山管内の自治体、商工団体、企業を訪問し、北海道立工業技術センターの利用促進を図るため、訪問しPRを兼ね情報交換を行なった。
	第1回北洋銀行ものづくりサスティナフェア（旧北洋銀行ものづくりテクノフェア）に出展し、北海道立工業技術センター事業や函館市産業支援センター入居企業の成果品を展示し、PRを行った 開催日：令和5年7月20日 会場：アクセスサッポロ
	以下の展示会・イベント等に北海道立工業技術センターブースを設け、研究成果を公表した。 第37回北海道技術ビジネス交流会（ビジネスEXP02023） 開催日：令和5年11月9日・10日 会場：アクセスサッポロ
財団WEBサイトの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・財団HPを適時更新して各種セミナー・イベントをPRした。 ・「頑張ってる企業紹介」WEBサイトの更新・拡充を行った。（更新10社、新規追加1社、紹介企業数42社）
メールマガジンの発行	財団・北海道立工業技術センター、関連する機関の情報を発信 発行回数：17回

公2 高度技術研究開発等推進事業

1 技術研究開発

(1) 高度技術開発・応用研究事業

地域のニーズに根ざした次の10テーマについて研究開発を行った。

- ① 地域製造業向けオープンソースロボットハンドモデルに関する研究 (R5～R7)
- ② 画像処理技術を用いた生産情報のデジタル化手法に関する技術開発 (R4～R6)
- ③ 地域製造業向けIoTのヒューマンインタラクションに関する研究 (R5～R8)
- ④ 成膜技術を応用した焼結用黒鉛型の導電性制御に関する研究 (R4～R6)
- ⑤ スパッタ成膜技術に関する研究 (R3～R5)
- ⑥ 相対湿度制御した効率的な乾燥装置技術に関する研究開発 (R5～R7)
- ⑦ 地域新規多獲性魚種の利用加工に関する研究開発 (R4～R6)
- ⑧ 海藻成分を利用した油脂素材の製造技術開発 (R5～R7)
- ⑨ レトルト殺菌技術を応用した冷蔵食品の開発に関する研究 (R5～R7)
- ⑩ 凍結技術を活用した道産海藻資源の高価値化に関する研究開発 (R3～R5)

(2) 起業化支援研究等推進事業

道内企業等の新分野参入や起業化を支援するため、研究課題の企画調整及び関係機関との連絡調整を行った。

(3) シーズ活用支援事業

工業技術センターや大学等の技術シーズを事業に活用する可能性の見極めや、地域企業等の製品開発初期段階の課題解決を行い新製品開発や新事業創出につなげることを目標としていたが、本年度の実績はなかった。

(4) 共同研究開発事業

企業等における研究開発や新製品の開発を促進するため、共同研究を実施した。

・令和5年度実績 9件

	課題名
1	水産加工品の凍結方法に関する研究
2	海藻の高度利用技術に関する研究開発
3	穀物加工品の高品質で効率的な乾燥技術に関する研究開発
4	秋から冬に行うキタムラサキウニの養殖技術開発
5	藻礁用海藻種苗固定具の実用評価試験および形状検証
6	海藻成分を利用した製品化技術の開発
7	Aiと魚眼カメラを用いた屋外照明の対話制御技術に係る研究開発
8	メタルジグの性能向上に向けた評価検証
9	素子間相互結合応用によるスマート水産業用IoTの新たな無線給電法に関する研究開発

(5) 研究開発プロジェクト事業

① 日本中央競馬会畜産振興事業 (R3～R5)

日本中央競馬会の助成事業。国産乳製品の国際競争力強化のため、輸入チーズとの差別化・優位性を訴求した国産チーズの開発・普及を図るため、「国産チーズ・イノベーション事業」のテーマで事業を実施した。

② 科学研究費助成事業(基盤研究B) (R3～R6)

日本学術振興会より助成を受けて実施した事業で、次世代に対応できる魚類の生体計測に向けて、生体内情報の可視化、計測、伝達を可能とするスマートバイオセンシングシステムを創出するため、QRコードを用いた情報通信システムの設計・製作と魚体への装着及びスマートバイオ

センシングシステムの検証と評価を行った。

③ イノベーション創出強化研究推進事業（R3～R5）

農林水産省の委託事業で、革新的な技術・商品・サービスや研究成果の迅速な実用化・事業化を図る実証研究を支援している。本年度は「輸出促進を目指した生鮮水産物の品質制御と鮮度の“見える化”技術の開発」について実施した。

④ 函館マリカルチャープロジェクト（地方大学・地域産業創生交付金事業）（R4～R8）

内閣府が実施する交付金事業。函館市が主体となり、北海道大学を中心とする研究機関、企業、漁業者等が連携して行う。当財団では、生産量日本一のマコンプを対象とし、ゲノム情報によるブランド種苗管理技術の構築、ローカーボン型スマート乾燥システムの開発、生コンブの利用加工特性に関する研究開発、コンブ特有のにおいを解明・制御するための研究開発等を実施した。

⑤ 地域企業の先端技術人材確保・育成等支援事業（R4～R6）

北海道の補助事業。地域企業に対し、技術支援コーディネーター（財団研究員職員）による基盤技術の高度化、製品化研究、製品改良、生産工程・設備保全技術の改善・効率化等生産性の向上及び人材確保等に関するニーズや課題の把握、改善に向けたマネジメントを行い、またこれらの課題解決に向けて技術支援等を実施した。

（6） 技術研究開発成果フォローアップ事業

① 研究開発成果フォローアップ事業

これまでに蓄積された北海道立工業技術センターの研究開発成果や受託・共同研究開発成果のフォローアップ、知的財産出願等の促進及び研究員の資質向上を図った。

2 北海道立工業技術センター運営管理

（1） 北海道立工業技術センター指定管理者事業

北海道から指定管理者の指定を受けて、施設設備の維持管理、会議室・研修室及び試験分析機器の貸出業務、見学者・来客者への対応等を行った。

（2） 維持管理事業・維持運営事業

北海道立工業技術センターの試験研究機器修繕等の維持管理を行った。

（3） 試験分析事業

地域企業等からの依頼を受けて、元素分析や食品の微生物検査等の各種試験分析を実施した。

・依頼試験・分析件数 155件

（4） 技術相談事業

企業等の実施する新製品開発・製造工程等の技術的課題等を解決するための技術相談を行った。

① 個別技術相談

地域企業等から技術的な課題等について相談を受け、助言した。

・相談件数 694件

② 巡回技術相談

地域企業の技術向上を図るため、北海道立工業技術センター研究員が生産現場を巡回し、企業が当面している技術的な課題について相談を受け、助言した。

・相談件数 3件

（5） 研修事業

研究開発の成果や新技術の普及を図るため、研究成果発表会や研修会を開催した。

① 一般技術研修

	内容	実施日	参加人数
1	北海道立工業技術センター研究成果発表会	令和5年9月27日	99
2	ChatGPTを活用したIoT入門講座	令和5年9月13日	12
3	EMC技術セミナー	令和6年2月22日	13
4	実務に役立つ食品の期限表示設定	令和5年6月29日	31
5	非加熱喫食調理済食品(RTE食品)のリステリア食中毒の危害と対策	令和5年10月6日	26
6	食品乾燥操作の最適設計 ～製品品質と乾燥効率を考慮した乾燥工程設計～	令和6年3月1日	15

② 個別技術研修

企業等の多様な技術的な課題に対応するための個別研修を実施した。

- ・開催回数 43回
- ・開催日数 47日
- ・参加人数 49名

(6) 技術情報提供事業

日本工業規格(JIS)の最新版、工業技術に関する専門図書、国内研究機関・大学・大手企業等の研究報告書、定期刊行物等を図書資料室に開架し、一般の利用に供した。

(7) 広報等事業

北海道立工業技術センターの積極的な活用を図るため、次の事業を実施した。

名称	実施日等	内容
「HITEC ニュース」をWEBサイトに掲載	令和5年6,9,12月 令和6年3月	活動報告を中心とした技術情報の提供
「北海道立工業技術センター業務報告」の発刊	令和5年5月	令和4年度業務内容の報告 発行部数：1,000部
メールマガジンの発行	随時	研修会の開催などセンターの活用等に関する情報の提供 登録数：約800アカウント

公3 地域産業活性化支援事業**1 中小企業等支援**

(1) 市場販路開拓等事業

① 市場販路開拓等事業

ア 地域技術・製品市場販路開拓事業

A 北洋銀行インフォメーションバザール in Tokyo 2023

北洋銀行インフォメーションバザールにブースを設置し、地域企業等の市場開拓・販路拡大の支援を行った。

- ・会期 令和5年8月31日～9月1日
- ・会場 池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル（東京都）
- ・入場者 約3,000名

【出展内容】

企業名	主な出展品
(株) エビスパック	いかめし 他
昭和製菓 (株)	北海道チーズケーキ 他
(有) 末廣軒	シュークリーム、プリン 他

B 第37回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO2023）

ビジネスEXPOにおいて「はこだてビジネス交流ゾーン」を設置し、地域企業等の市場開拓・販路拡大の支援および工業技術センターが関わった企業との共同研究の成果等を紹介した。

- ・会期 令和5年11月9日・10日
- ・会場 アクセスサッポロ（札幌市）
- ・入場者 22,942名

【出展内容】

企業名	主な出展品
上加冷機工業 (株)	J-COOL Master200 食品用急速凍結機 J-COOL Master Defrost100 食品用高品質解凍機
(株) アクトシステムズ	蓄電システム、通信変換器、USB-シリアルコンバータ
函館酸素 (株)	食添用アルゴンガス エスプーマ
(株) グローバルコミュニケーションズ	デジタルペンソリューション 施設予約サービス
タイヨー製作所 (株)	食品加工機械
北海道立工業技術センター及び財団紹介ブース	地域資源を活用した特徴のある企業製品の紹介、北海道立工業技術センター成果品の展示 他

C 第58回スーパーマーケット・トレードショー2024

地域企業が首都圏市場における販売ルートの開拓や販路の拡大を図ることを目的に、出展企業に対し、ブース代等の支援を行った。

- ・会期 令和6年2月14日～16日
- ・会場 幕張メッセ 全館
- ・入場者 75,858名

【出展内容】

企業名	主な出展品
(株) アイケーフーズ	じゃがじゃがシューラスク
カドウフーズ (株)	白い半熟スイートポテト
昭和製菓 (株)	函館チーズタルト 他
道南食品 (株)	北海道サイコロキャラメル
(株) 吉田食品	クリリンカボチャパイ 他
函館米穀 (株)	北海道産ふっくりんこ
山栄食品工業 (株)	やわらかチーズ帆立 他
(有) タカハシ食品	にしん甘露煮、ホタテしぐれ煮、昆布巻 他
(株) 竹田食品	数の子松前 他
(株) Flower Picnic Café	お花のボウロ
友栄 北海道かいこうマーケット (株)	玉ねぎ天かまぼこ
(株) 小原	コアップガラナ
(株) 天狗堂宝船	きびだんご、プロテインひとくち餅 他

イ 出展支援事業

函館地域の企業等が展示会等に参加して自社の有する技術シーズをPRし、販路拡大を図るとともに、需要の開拓に必要な情報や他社の技術動向に関する情報等を収集するなどの活動に対し、助成を行った。

・実績 5件

	企業名	実施日	展示会の名称	助成額
1	(同)まるたまエンタープライズ	令和5年6月6日 ～6月7日	第37回北海道産品取引商談会 ・札幌会場	52千円
2	能戸フーズ (株)	令和5年8月31日 ～9月1日	北洋銀行・帯広信用金庫インフォメーションバザール	154千円
3	(株) 村瀬鉄工所	令和5年10月18日 ～10月20日	2023 東京水道展	750千円
4	昭和製菓 (株)	令和5年11月16日 ～11月17日	11th 沖縄大交易会 2023	56千円
5	(株) 菅製作所	令和6年3月22日 ～3月25日	2024年第71回応用物理学会春季学術講演会	151千円

ウ デザイン支援事業

A デザインセミナーおよび個別相談会

商品デザインやパッケージデザインに対する地域企業の意識向上を図ることを目的として、函館地域の製造業等の経営者や従業員などを対象に、以下のセミナーおよび個別相談会を実施した。

名称等	実施日	実施概要	参加人数
デザインセミナー	令和6年2月9日 14:30～16:00	地域企業のデザイン業務、デザイン活用に必要な知財セミナー 講師 札幌北商標法律事務所 弁護士・弁理士 川上大雅 氏	24名

個別相談会	令和6年2月9日 16:00～17:30	講師 札幌北商標法律事務所 弁護士・弁理士 川上大雅 氏 講師 ブルーム・エー 代表 岡田 暁 氏	3社
-------	-------------------------	---	----

2 函館市産業支援センター運営管理

(1) 函館市産業支援センター指定管理者事業

函館市より指定管理者の指定を受け、研究開発型企業及び新規事業を展開する企業を育成する施設である函館市産業支援センターの維持運営を管理業務仕様書に基づき実施するとともに、設置目的に資する事業を実施した。

① 施設の利用状況（令和6年3月末現在）

ア 入居者状況

（単位：件）

施設名	入居者数		
	継続	新規	退去
インキュベータールーム	4	2	0
インキュベーターファクトリー	1	1	1
プレインキュベータールーム	3	3	0

イ 施設利用状況

マルチメディアールーム利用者数	908人
視察等来館者数	153人

② 設置目的に資する事業

ア 入居者の募集、入居相談、PRに関すること

起業・創業を志す方を対象として、施設に利用促進や各種事業の開催についてPR等を行った。

- A ホームページでの入居者募集PR
- B 新聞報道および広報誌等への掲載
- C ポスター掲示による入居者募集PR

配布先	配布先件数	枚数
関係機関・施設	10機関	11

D 入居相談 5件

イ 入居者・支援者の交流促進

A インキュベーション・マネジャー等による起業化支援

インキュベーション・マネジャー、工業技術センター研究員、支援センター職員が、入居者からの相談に対応し、技術的アドバイスや補助事業等の情報提供を行った。

B 入居者懇談会の開催

入居者と支援関係者との意見交換・情報交換を行うほか、起業化等に向けた交流、関係構築を促進するため、支援関係者、函館テクノパーク立地企業を対象とした懇談会を開催した。

開催日・場所	内容	参加人数
令和6年3月19日 ホテル法華クラブ函館	入居者の近況報告等	39

C 創業支援関係団体連絡会議の開催

函館地域において、起業・創業を志す方に対する支援を行う産業支援機関・金融機関等との連携を図り、総合的な育成支援を目的とした会議を開催した。

開催日・場所	内容	参加人数
令和6年3月19日 ホテル法華クラブ函館	・令和5年度の事業進捗状況の報告 ・起業、創業支援の取り組みに係る情報交換	函館商工会議所 中小企業基盤整備機構北海道本部 北海道中小企業総合支援センター 日本政策金融公庫函館支店 函館市 北斗市 七飯町 函館地域産業振興財団

D 起業化・創業支援セミナーの開催

函館地域の起業・創業に関するスキルアップや意識醸成を目的として、下記のセミナーを開催した。

	名称等	実施日	実施概要	参加人数
1	プレゼン作成セミナー	令和5年5月25日 13:30~16:30	プレゼン作成実践セミナー 講師：(株)ライズ・マーケティング・ジャパン 代表取締役 笹谷 努 氏	18名
2	新規事業セミナー (共同主催) ・北海道中小企業家同友会函館支部 ・函館市・北斗市・七飯町	令和5年6月8日 18:30~20:40 プレミアホテル-CABIN PRESIDENT - 函館	一風堂の経営戦略と今後の展開 講師 (株)力の源ホールディングス 代表取締役 河原 成美 氏	99名
3	創業スキルアップ講座 全9講座	令和6年1月29日 ~令和6年3月7日	創業予定者が必要とするスキルの習得を目的とする「経営、販路開拓、人材育成、財務」に関する連続講座を実施した。	103名
4	ビジネスプラン作成 スクール	令和5年8月23日 ~令和6年1月24日	新規創業や新規事業化を図るとき必要となる事業計画の作成方法を学ぶ講座およびグループワークによる事業計画の作成支援を実施した。	28名

※詳細は、起業化促進事業 創業者の育成を参照

E 起業化・創業支援に係る相談

創業・起業を志す方に対し、インキュベーション・マネージャーや起業化支援専門員が随時個別相談を受付けた。

・相談件数 88件

F ビジネスマッチングの促進

第37回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネスEXPO2023）において、函館市産業支援センターとして、入居企業とともに「はこだてビジネス交流ゾーン」に出展した。

・会期 令和5年11月9日~10日

・会場 アクセスサッポロ（札幌市）

【函館市産業支援センター関係企業出展内容】

企業名	主な出展内容
デジタル・インフォメーション・テクノロジー(株)	企業情報ポスターの展示
(株) エクスプローラ	技術紹介ポスターの展示

エスイーシー・シープレックス（株）	耐圧防水樹脂
-------------------	--------

（2）産業支援センター財団独自事業

函館地域の新事業創出・起業化を支援するため、セミナー等を通じて、函館市産業支援センターのインキュベータールームやファクトリーのPRを行うほか、各支援機関等と連携して創業者への支援を行った。

ア 創業・起業に関する無料の窓口相談・個別相談

- ・随時、相談者に対応

イ 各支援機関等との連携

- ・相談者が活用できる制度等の紹介（北海道中小企業総合支援センター、中小機構北海道本部、日本政策金融公庫函館支店などと連携）
- ・他地域の関係機関との連携・交流

3 起業者への育成・支援

（1）起業化促進事業

① 創業者の育成

ア 創業支援セミナー

創業意識の向上・醸成及び創業予定者が必要とする基礎知識の習得を目的として、下記のセミナーを開催した。

名称等	実施日	実施概要	参加人数
プレゼン作成セミナー	令和5年5月25日 13:30~16:30	プレゼン作成実践セミナー 講師：(株)ライズ・マーケティング・ジャパン 代表取締役 笹谷 努 氏	18名
新規事業セミナー	令和5年6月8日 18:30~20:40	一風堂の経営戦略と今後の展開 講師 (株)力の源ホールディングス 代表取締役 河原成美 氏	99名

イ 創業スキルアップ講座

創業予定者、創業間もない経営者等を対象に、創業するとき必要とする経営、販路開拓、人材育成、財務等のスキルを習得することを目的とした講座を以下のとおり実施した。

- ・講座実施数 9講座
- ・延べ受講者数 103名
- ・修了者数 14名

	テーマ名	実施日	実施場所	講師	受講者数
1	創業集中講座	令和6年 1月29日 ~30日	工技C 会議室	(株)イーバック 代表取締役 土井 尚人 氏	12名 11名
2	知的財産フル活用セミナー&ビジネス・マッチング	令和6年 1月30日	工技C 会議室	PATRADE (株) 代表取締役 富澤 正 氏	17名
3	待ったなし!デジタル化の波 ~DX迷子のための推進講座~	令和6年 1月31日	工技C 会議室	(株)ミュートネット 代表取締役 市村淳一 氏	14名

4	人材確保と定着のしくみづくり	令和6年 2月20日	工技C 会議室	(株) インテレッジ 代表取締役 高橋正也 氏	12名
5	その事業は儲かるのか? 実際の経営を体感する!	令和6年 2月27日	工技C 会議室	大鎌電気(株) 代表取締役 大鎌幸雄 氏	15名
6	創業の基本/事業開始後のギャップ	令和6年 3月1日	工技C 会議室	(株) 北海道新事業創造プラザ 代表取締役 吉澤慶記 氏	17名

ウ ビジネスプラン作成スクール

創業者や創業予定者、新規事業に取り組む企業等を対象に、創業や事業推進に必要な事業計画の作成方法を習得することを目的に以下のとおり実施した。

- ・実施期間 令和5年8月23日～令和6年1月24日
- ・受講者数 28名
- ・修了者数 26名

日 程	内 容		
令和5年 8月23日	第1講座から第10講座まで、毎回、座学(経営、販売方法、人材育成、財務など)を受講後、グループディスカッションによるビジネスプラン作成実習を行った。		
令和6年 ～1月24日 (全11講座)	令和6年1月24日 15:00～19:30 (第11講座) プレミアホテル ーCABIN PRESIDENT - 函館	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネスプラン発表会(プレゼンテーション実習) 参加者数 57名 【最優秀賞】(株) Hakodate 灯り舎 (akariya) ● 修了式 	
講師・ アドバイザー	所 属 等	氏 名	
	エスイーシー・シープレックス(株) 営業顧問	小野 雅晴 氏	
	(株) ミュートネット 代表取締役	市村 淳一 氏	
	(株) I like IT 代表取締役	荒木 明美 氏	※講師のみ
	大鎌電気(株) 代表取締役	大鎌 幸雄 氏	
	とのさき社会保険労務士事務所	外崎 晋也 氏	
	中小企業診断士	番場 啓 氏	
	中小企業診断士	小野 雅弥 氏	
	函館大学 地域連携センター長 専任講師	佐藤 浩史 氏	
	日本政策金融公庫函館支店 融資課長	藪下 毅 氏	
	(公財) 函館地域産業振興財団		
	総務企画部 産業支援課長・S r - I M	金澤 透	
	〃 産業支援課 専門員	石澤 道秀	
	創業支援アドバイザー	進藤 裕之	

② ネットワークによる創業支援

ア 創業相談窓口の設置

起業・創業相談に対応する専門員および創業支援アドバイザーを配置し、函館市産業支援センターの無料相談窓口等と連携して、随時創業相談を受付けた。

イ 創業者のフォローアップ

企業の経営面、技術面等の課題を解決するため、インキュベーション・マネジャー(IM)からの助言とともに、他の支援機関や制度の紹介などを行った。

- ・相談数103企業、個人(延べ200回)

ウ 函館きぎょう支援ネットワークによる事業化相談会

3回

エ 支援者ネットワークとの連携

起業家を効率よく支援するための知識の習得や人的ネットワークを形成するため、日本ビジネス・インキュベーション協会の認定IM等との交流会等に参加した。

名称	実施日	内容	参加人数
北海道IM連携促進会運営委員会出席（札幌市）	令和5年6月1日	・起業化支援に関する情報収集、各地域の支援事例に関する情報交換を行った。	1名
JBIAシンポジウム2023	令和5年11月17日	・起業化支援に関する情報収集、各地域の支援事例に関する講演・交流会に参加しノウハウの共有を図った	2名
青森県IMネットワーク協議会「令和5年度第2回スキルアップ研修会」参加（青森市）	令和6年1月26日	・東北地域IMと交流を図るとともに、函館市産業支援センター卒業企業の販路開拓支援を行った。	1名

③ 創業バックアップ助成金

函館地域において、新たに創業する者及び創業から5年以内の方（企業）の優れた事業計画に対し資金助成を行うため、審査を経て助成した。

助成金交付式開催日

- ・日 時 令和5年7月24日 13:30～14:30
- ・場 所 北海道立工業技術センター 会議室
- ・採択数 3件

	採択者名	認定事業名	助成額
一般枠 (函館市)	Local Revolution 岡本啓吾 氏	未利用資源を活用した持続可能な北海道銘銘菓の商品開発事業	2,000千円
一般枠 (函館市)	Cinq Company 磯谷裕二 氏	函館初の本格的なイスラムフレンドリー飲食事業	2,000千円
若者枠 (函館市)	倉橋康平 氏	養殖シミュレーションによる養殖ノウハウの提供	622千円

4 地域産業活性化

(1) 広域的産業立地支援事業

函館地域経済牽引事業促進協議会の事務局を担い、企業誘致PRのため、ホームページからの情報発信と首都圏等で開催された展示会へ出展し、函館地域の産学官連携の現状、特に北海道立工業技術センター機能を活用した技術的な支援体制などの立地優位性をアピールした。

展示会名	開催期間	開催場所
企業立地フェア2023	令和5年5月17日～5月19日	東京ビッグサイト
メッセナゴヤ2023	令和5年11月8日～11月10日	ポートメッセなごや

【収益等事業】

収1 受託等事業

(1) 受託研究開発事業

当財団が有する知識、技術及び施設を活用して、地域企業等から研究開発業務を受託し、委託先企業の技術高度化を図った。

- ・受託件数 1件

(2) その他受託事業

当財団が有する知識、技術及び施設等を活用し、地域企業の経営基盤強化等に資する業務として、次の1件を受託した。

- ・函館市専門家派遣型IT・ロボット等活用支援事業における企業への診断助言業務

(3) 知的財産活用促進事業

令和5年度は、保有特許権等の実施契約が1件あった。

財団運営課題について

日銀は3月19日の金融政策決定会合で17年ぶりのマイナス金利政策の解除を決定したが、当面、金利の抑制姿勢を続けるとみられることから、長期金利の上昇にはまだ時間がかかると予想されており、当面、日本国債、地方債及び一般担保付社債等による従来型の基金運用だけでは、十分な事業資金の確保を見込めない状況にある。

こうした事業資金の大幅な不足状態に対し、これまでは事業規模の縮小や積立資金の取り崩しで対応してきたが、これにも限りがあり、対策が必要な状況となっている。

長期的に持続可能な事業運営体制を構築するため、次の取り組みを継続して進めた。

① 基金の効率的な運用

これまでの基金運用方法の検討結果に基づき、基金の適正な維持管理を図りつつ、財産管理運用規定の範囲内で効率的な運用を行った。

② 新たな外部資金事業の獲得及び収益事業の拡充

研究開発から販路開拓、創業支援まで一貫して支援できる財団の強みを生かし、新たな外部資金事業の獲得に努め、農林水産省のオープンイノベーション研究・実用化推進事業「開発研究ステージ」の採択に至ったほか、日本中央競馬会の畜産振興事業として「日本チーズイノベーション事業」に取り組んだ。

一方、保有する知的財産権の利用促進、実施許諾による実施料収入増を図ったが、事業収入の拡充には至らなかった。

③ 賛助会員の増強

コロナ禍の影響により、企業にとって厳しい経営環境が継続しているが、令和5年度は新規入会が4社、退会が0社で4社の賛助会員の増となり、計147社及び304万円の収入となり、前年度から6万円の収入増となった。

④ 事業の安定的継続に向けた関係自治体との検討

道南地域の発展に資する使命のもと、公益財団法人として各種事業を安定的に継続するため、北海道及び道南地域自治体とその財源・方策等について具体的な検討を始めた。

附属明細書について

令和 5 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 3 4 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

令和 6 年 5 月

公益財団法人函館地域産業振興財団